

私たちの街の 家計簿 チェック!

今回お知らせするのは、平成6年度の当初予算です。市の予算には、一般会計、特別会計、企業会計があり、一般会計の歳入の63.0%を市税が占めています。皆さんが納めた税金は、一体どのように使われているのかあなた自身がチェックしてください。

平成6年度
財政事情の公表

7つのチェックポイント!

- チェック ① 一般会計は **673億5,000万円**
- チェック ② 特別会計は **305億1,427万円**
- チェック ③ 企業会計は **159億3,271万円**
- チェック ④ 歳入の63.0%は市税 **423億9,600万円**
- チェック ⑤ 歳出のトップは土木費 **160億1,917万円**
- チェック ⑥ 市民1人当たりの市税負担額 **18万3,439円**
- チェック ⑦ 市民1人当たりを使うお金 **29万1,410円**



△公共施設見学でロゼシアターを訪問し、自分の納めた税金が有効的に使われているかチェック。

一般会計は五・三%ダウン

今年度の一般会計は六百七十三億五千万円。景気回復の遅れが影響しているため、前年度と比較して五・三%の減少です。

一般会計の歳入で一番多いのは、皆さんから納めていただく市民税や固定資産税などの税金です。全体の六十三%を占めていますが、前年度より一・七%の減少を見込んでいます。

ことしも昨年に引き続き、法人市民税の大幅な落ち込みが予想されているため、財政調整基金の取り崩しや市債の活用などで、財源確保に努めました。富士市は、税金などの自主財源は七十六・四%。国の補助金や借入金などの依存財源は二十三・六%となっています。

歳出トップは土木費

歳出を目的別に見ると、ここ数年はロゼシアターの建設事業などの教育費がトップでしたが、今年度は市街地の整備や都市計画事業などの土木費がトップとなり、歳出の二十三・八%を占めています。

土木費の主なものには、市道や都市計画街路の新設改良事業、臨港富士線の電線類地中化事業などがあり、快適なまちづくりのための整備に使われます。

次に多いのは教育費で、歳出の十九・六%。(仮称)新中央図書館の建設を初め、市民プールの移転建設や神戸公民館の移転新築などに使われます。

平成6年度

一般会計

一般会計とは市税収入を主な財源として、道路、教育、福祉などに使う会計です。

歳入

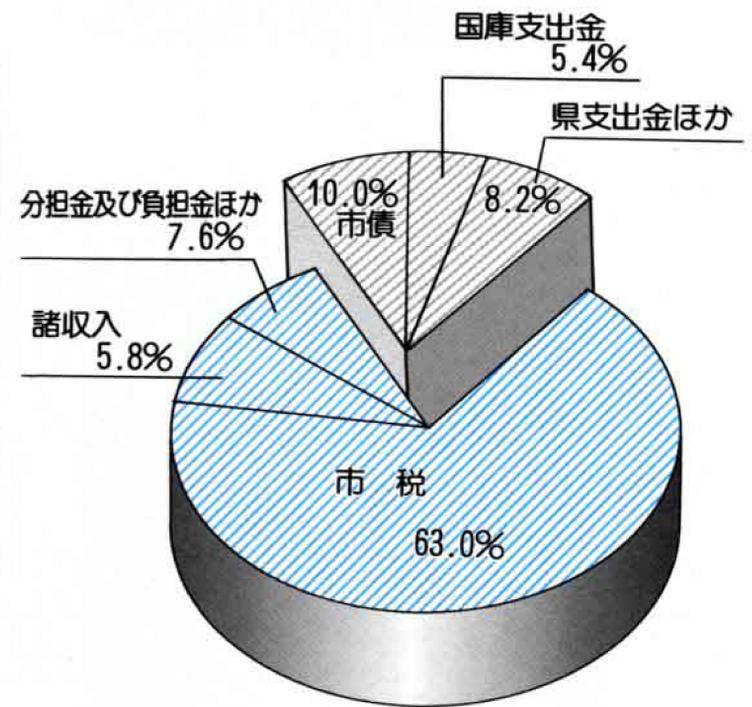
会計年度内に入ってくるお金

科目別	収入金額
総額	673億5,000万円
市税 (市民税・固定資産税など)	423億9,600万円
市債 (市の借入金)	67億4,970万円
諸収入 (預金利子など)	38億7,832万円
国庫支出金 (国からの補助金など)	36億5,640万円
県支出金 (県からの補助金など)	21億3,342万円
地方譲与税 (国から地方に譲与されるお金)	17億1,000万円
分担金及び負担金 (施設入所者の負担金など)	16億9,547万円
使用料及び手数料 (市営住宅使用料など)	15億2,183万円
繰越金 (前年度からの繰越金)	10億円
繰入金 (基金からの繰入金)	8億4,281万円
その他	17億6,605万円

財源別歳入

自主財源
依存財源

673億5,000万円



※会計年度 (4月1日～翌年3月31日)

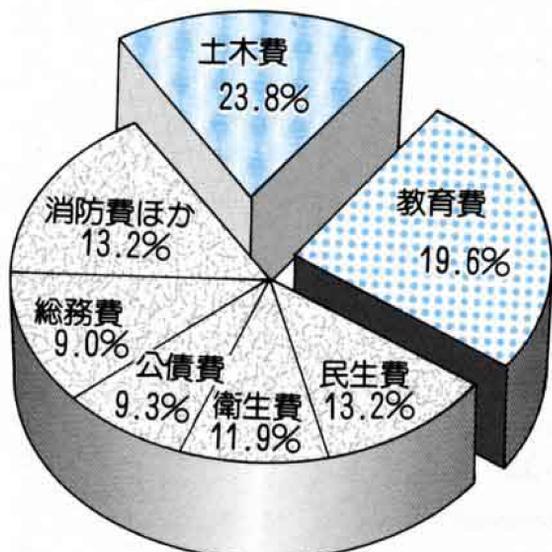
歳出

会計年度内に使うお金

目的別歳出

673億5,000万円

科目別	支出金額
総額	673億5,000万円
土木費 (道路や河川の整備に)	160億1,917万円
教育費 (学校整備や社会教育に)	131億7,955万円
民生費 (社会福祉などに)	88億8,107万円
衛生費 (ごみ処理や病気の予防に)	80億3,340万円
公債費 (借りたお金を返すために)	62億3,604万円
総務費 (庁舎管理や人件費などに)	60億6,326万円
消防費 (消防・水防・防災のために)	23億8,789万円
労働費 (働く人のために)	21億8,416万円
農林水産業費 (農林業や水産業のために)	20億1,896万円
商工費 (商業や工業の発展のために)	16億8,537万円
議会費 (議会の運営のために)	5億3,727万円
その他	1億2,386万円



市民1人当りに使うお金

29万1,410円

内訳の主なものを見ると…



道路や
河川の整備に

6万9,312円

教育に

5万7,025円



社会福祉などに

3万8,427円

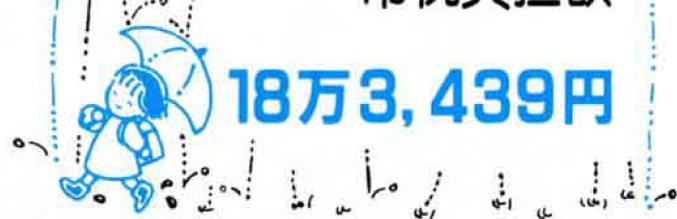
ごみ処理や
病気の予防に

3万4,759円



市民1人当たりの
市税負担額

18万3,439円



ひとことMEMO

自主財源

市がみずからの手で、収納したり徴収できる財源のことです。例えば市民税、諸収入、使用料や手数料、繰入金、繰越金などです。

富士市の歳入総額に占める自主財源比率は76.4%。ちなみに、県下の市町村平均は大体67%です。

依存財源

自主財源に対して、国や県からの収入をいいます。国庫支出金、県支出金、地方譲与税がこれに当たります。

財政調整基金

家庭の貯金と同じような性質を持っています。経済事情の変動などに対応するために積み立てられたお金で、財源が不足する場合に不足額を補うために使います。

市債

市が建設事業などを行うため、国や銀行から長期にお金を借りることです。

※平成6年4月1日の人口23万1,118人で算出

企業会計

特別会計

水道事業
の予算額

45億3,041万円

病院事業
の予算額

114億 230万円

予算額464億4,698万円 前年度から5.8%の伸び

会計区分	予算額
老人保健医療事業	96億1,500万円
国民健康保険事業	94億9,400万円
下水道事業	89億1,100万円
富士中部土地区画整理事業	13億7,700万円
公共用地先行取得事業	3億5,727万円
地方卸売市場事業	2億6,800万円
駐車場事業	6,700万円

行政の基本的な経費を一般会計といい、特定の事業ごとに分けて、別個に会計をしている経費を特別会計といいます。

富士市には、十六の特別会計と二つの企業会計があります。左の表は、財産管理特別会計（内山、旧吉原、旧島田、旧今泉、旧今泉・一色・神戸・今宮、旧元吉原、旧須津、旧吉永、旧原田）を省略しました。

下水道

下水道事業の財源

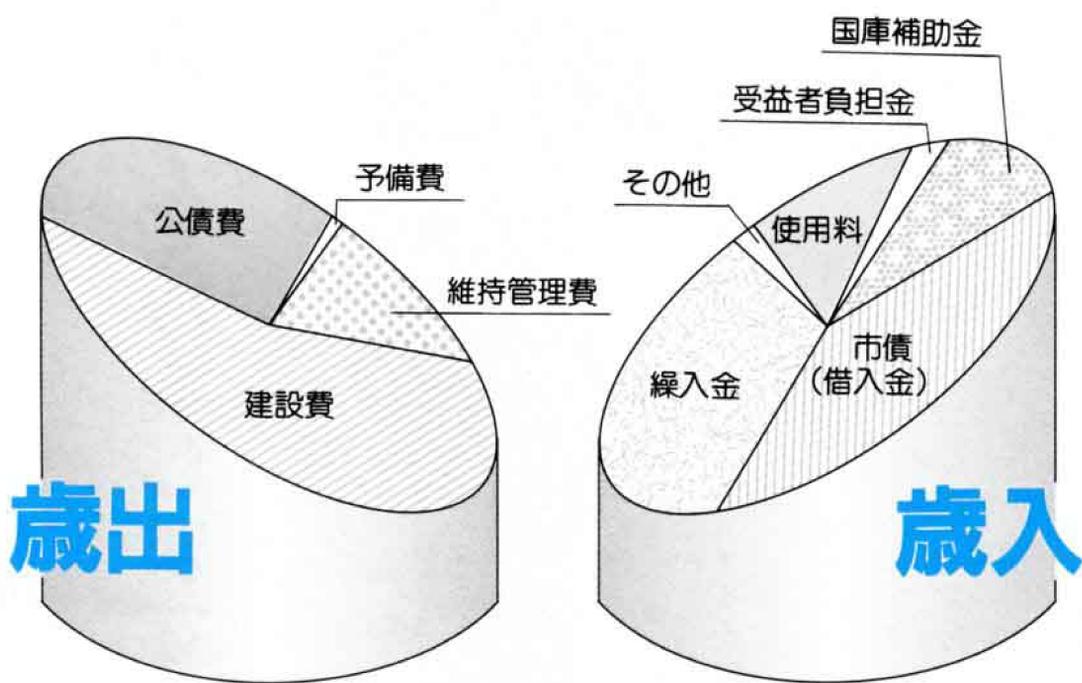
下水道事業は、下水道管に接続すれば処理可能となった人に建設費の一部を負担してもらい「受益者負担金」や、家庭から出る汚水の処理費を負担してもらい「下水道使用料」、ほかに市債による借入金や国庫補助金などが主な財源となっています。

そのため、皆さんから納めていただく税金が主な財源となっている「一般会計」と区別して、「特別会計」による独立した運営を行っています。

快適な暮らしを約束

家庭などから流れ出る汚水がふえたため、河川が汚れ、ハエ、蚊や悪臭の発生原因になりました。市では、公共下水道の必要性から昭和四十年に「吉原下水処理場」で下水処理を開始しました。現在は「西部浄化センター」「東部浄化センター」の合計三カ所で下水処理を行っています。

下水道事業特別会計 89億1,100万円



データブック (平成5年度末)

処理可能世帯 3万3,700世帯

- ・市内の世帯数の46.9%。
- ・下水道管が整備されているため、家庭の排水管などと接続すれば、家庭雑排水や、し尿を流すことのできる世帯のこと。

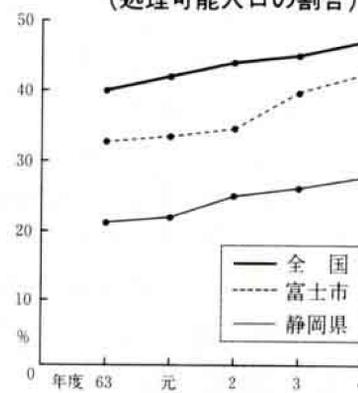
水洗化世帯 2万4,500世帯

- ・処理可能世帯の72.7%。(全世帯の34.1%)
- ・実際に下水道管に家庭雑排水や、し尿を流している世帯のこと。

下水道管網整備面積 2,050㎡

- ・富士市の面積の9.6%。

公共下水道普及率 (処理可能人口の割合)



平成6年度 下水道事業の財源

	歳出額	歳入の内訳					
		使用料	受益者負担金	国庫補助金	市債(借入金)	繰入金	その他(繰越金など)
維持管理費	13億 296万円	12億4,390万円				1,701万円	4,205万円
建設費	50億5,001万円		2億5,310万円	8億7,315万円	35億 570万円	3億5,976万円	5,830万円
公債費(借入金返済)	24億9,972万円					24億9,723万円	249万円
予備費	5,831万円						5,831万円
合計	89億1,100万円	12億4,390万円	2億5,310万円	8億7,315万円	35億 570万円	28億7,400万円	1億6,115万円

下水道整備は

これから

市は、下水道の整備に力を注いでいます。「財政事情の公表」の中で、特別会計の下水道事業についてお知らせしたのも、みなさんにもっと下水道のことを知ってほしいから。

下水道整備は、これからも進めていきます。しかし、多額の費用をかけた施設も、利用しなければ大変なむだになってしまいます。下水道管が整備されたら、早目に市の指定業者に依頼して、家庭の排水管と接続してください。

また、下水道施設の維持管理上、下水道管のつまりや破損の原因となる油類、ビニール、生理用品などは、絶対流さないように正しい使い方を心がけてください。

下水道工事が始まると、周囲の皆さんにはご迷惑をおかけしますが、住みよいまちづくりのため、ご理解とご協力をお願いします。

下水道に関する
問い合わせ

下水道部管理課
内線 2511